

1988年の茨城県における斑点米の多発生について

誌名	茨城県病害虫研究会報
ISSN	03862739
著者名	横須賀,知之 原,敬之助 小池,三千夫 高橋,修 仲田,道生 関口,淳 中島,久仁夫 小森,隆太郎
発行元	茨城県病害虫研究会
巻/号	29号
掲載ページ	p. 42-43
発行年月	1990年6月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



1988年の茨城県における斑点米の多発生について

横須賀知之**・原敬之助****・小池三千夫**
 高橋修***・仲田道生*・関口淳*****
 中島久仁夫****・小森隆太郎*****

1988年の水稲は、7月下旬からの低温寡照による成育不良やいもち病の発生で収量が平年を大きく下回った。さらに、局地的にカメムシ類の吸汁による斑点米が多発生し、品質の面で問題となった。そこで、斑点米の発生状況について調査を行ったのでその結果を報告する。

なお、本調査に快く協力していただいた茨城県農業共済組合連合会に対し感謝の意を表する。

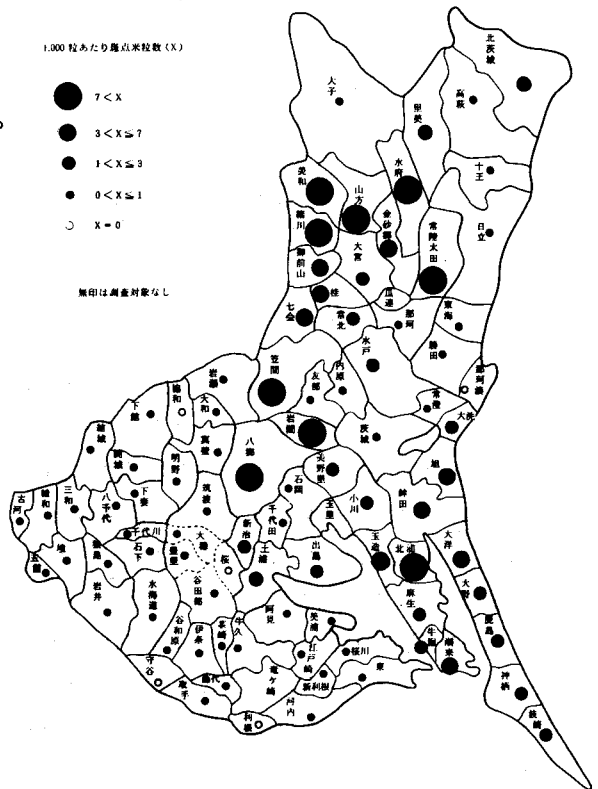
調査方法

調査対象は、茨城県農業共済組合連合会で行っている災害調査のための水稲実測調査は場とした。水稲実測調査は、1は場ごとに坪刈りを行い収量を調査している。ここでは、その粗玄米を用いて調査を行った。調査点数は1,067は場で、それぞれ粗玄米1,000粒をカルトンに並べて斑点米の粒数を調査した。

結果および考察

1,000粒あたり平均斑点米粒数は、県北地区で4.7粒、鹿行地区で4.5粒、県南地区で1.2粒、県西地区で0.3粒であった。多発生地帯は、久慈郡東部から東茨城郡北西部、那珂郡北西部、西茨城郡北西部、新治郡の一部にかけての地域（水府村9.0粒、金砂郷村3.8粒、山方町11.6粒、美和村26.5粒、緒川村23.9粒、御前山村5.1粒、桂村

3.4粒、七会村3.4粒、笠間市15.2粒、岩間町15.9粒、八郷町7.2粒）と鹿行地区の北部地域（旭村6.7粒、銚田町4.2粒、大洋村4.7粒、北浦村8.6粒、玉造町6.8粒）であった（第1図）。高井ら（1975）が行った同様の調査でも、同一傾向の発生分布の結果が出ており、斑点米カメムシ類は県内全域に均一に分布しているのではなく、県の北西部と北浦の北部周辺に高い密度で生息しているものと考えられる。



第1図 斑点米の発生分布

品種別に斑点米の発生状況を見てみると、トロキワセ、初星、チヨニシキ等の早生品種に発生

茨城県病害虫研究会会報第29号(1990); 42~43

- * 病害虫防除所
- ** 同県北担当
- *** 同鹿行支所
- **** 同県南支所
- ***** 同県西支所
- ***** 農業試験場

が多かった（第1表）。これは、従来言われているとおり、出穂の早い品種に集中して加害したためと考えられる。また、病害虫防除所の巡回調査等によるとクモヘリカメムシの発生が平年より多く認められ、本種が加害の中心であったと考えられる。

第1表 斑点米発生の品種間差

品 種	調査 点数	1,000粒あ たり斑点米 平均粒数	最小～最大
初 星	192	5.21	0～163.0
トドロキワセ	42	11.85	0～207.5
チヨニシキ	62	5.82	0～85.0
コシヒカリ	623	1.14	0～58.0
大 空	33	2.08	0～21.0
青い空	16	1.44	0～11.0
日本晴	26	0.94	0～11.5
月の光	13	0.04	0～0.5

今回の調査での斑点米の最高粒数は笠間市での1,000粒あたり207.5粒で、品種はトドロキワセであった。また、岩間町では163.0粒で品種は初星、美和村では88.5粒で品種はトドロキワセの地点があった（第2表）。穂揃期に60回振りすくい取りでカメムシ成虫が1頭すくい取られると0.01～0.02%の斑点米が発生する（清水1988）ということから、単純に逆算すると60回振りすくい取りで1,000頭以上の密度であったということになる。しかし、巡回調査によると、多いほ場でも10回振りすくい取りで数頭程度の発生であり、上述のよ

うな高い密度のほ場は認められなかったことから局地的にカメムシが大発生したことが考えられる。その他の多発生要因としては、収穫期が生育の遅れや天候不順で1カ月近く遅れたため加害期間が長くなったこと、天候不順で防除適期に薬剤散布ができなかったことなどが考えられる。本県における斑点米カメムシ類の生態についてはまだ不明な点が多いため、今後も機会をとらえて調査を実施し、生態等について解明していく必要があると考えられる。

第2表 斑点米多発地点

1,000粒あ たり斑点米粒数	市町村名	品 種
207.5	笠間市	トドロキワセ
163.0	岩間町	初 星
88.5	美和村	トドロキワセ
85.0	緒川村	チヨニシキ
82.0	八郷町	初 星
74.5	緒川村	初 星
59.0	山方町	初 星
58.0	笠間市	コシヒカリ
56.0	八郷町	初 星
39.5	岩間町	初 星

引用文献

高井昭・稲生稔・川田惣平（1975）：茨城県における斑点米の発生とその対策，茨城県農業試験場研究報告16，43～58

清水喜一（1988）：カメムシ類の発生と斑点米，農業研究34（4），12～17